

令和3年度夢アイデア提案

未来家族の夢物語

◆背景と目的

コロナ感染に明け暮れる二年間での我が家の暮らしぶりを振り返り、(一日の流れに沿いながら) 未来たとえば2030年から2040年のWITH コロナ生活物語を描いてみた。

◆登場人物

父：会社役員、母：専業主婦、ペット(同居)：トイプードル犬、息子(別居)：会社員、娘(別居)：子育て中の派遣社員、孫：4人(就学前)

◆未来想像図(舞台・場面)

(1) 各個人(ひと)の未来と社会

年齢・性別・障害の有無・所得等に関わりなく、多様な価値観で豊かな人生をめざす社会像を提案

(2) 活動環境の未来

コロナ禍の新しい生活環境の下、ICTやマーケティング環境に対応した社会活動の姿を提案

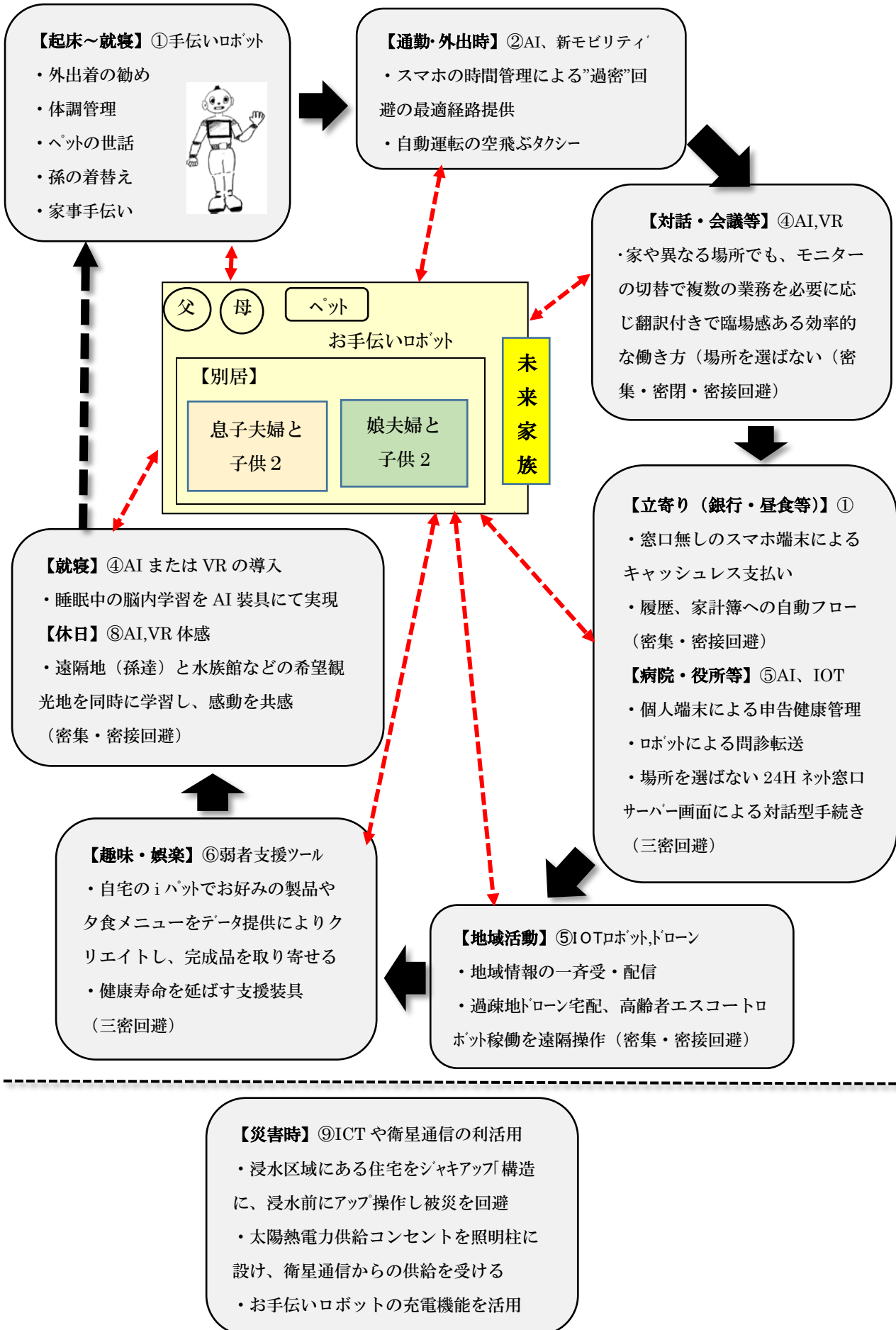
(3) 地域活性化を目指す未来

少子高齢化が進む中、地域生活で繋がるコミュニティや新たな市場づくりを提案

◆生活シーン(○は行動対象者)

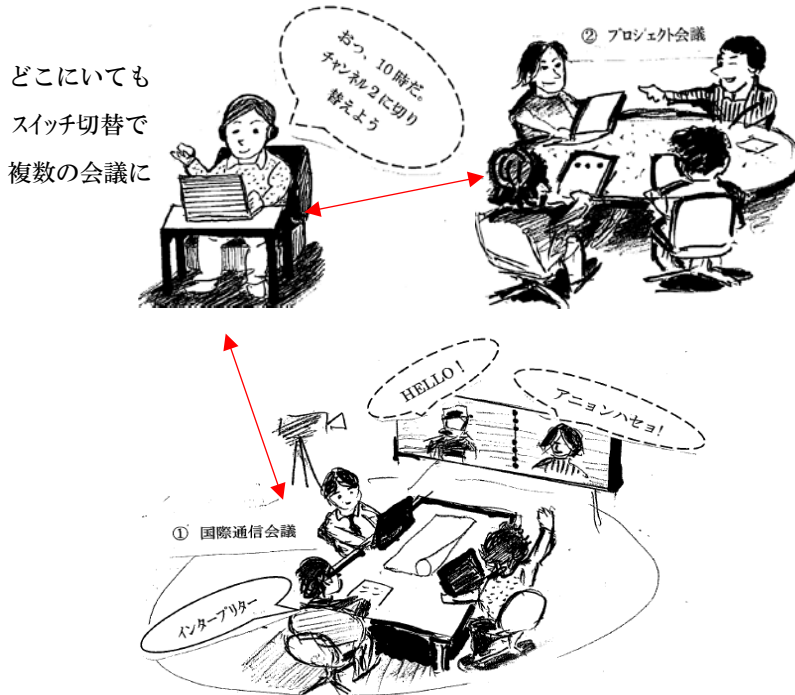
| タイムスケジュール | 父 | 母 | 息子 | 娘 | 孫 | ペット | 考えられる未来想像場面 |
|-----------|--------|-----|----|---|---|--------|-------------------------|
| 起床・朝食(散歩) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | (○) | ①AI 又はお手伝いロボットの導入 |
| 出勤 | ○ | | ○ | ○ | | 家 ⑤ | ②AI による支援、新たなモビリティ |
| 外出含む行動 | 保育(送り) | | | ○ | ○ | | ③AI による支援(保育園との交信) |
| | 会議・対話 | ○ | | ○ | | | ④AI または VR の導入 |
| | 銀行 | | ○ | | | | ①AI 又はお手伝いロボットの導入 |
| | 昼食 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ①AI 又はお手伝いロボットの導入 |
| | 病院・役所 | ○ | ○ | | | | ⑤AI、IOT による遠隔支援環境 |
| | 地域活動 | | ○ | | | | ⑥ IOT、ロボットの導入、生活弱者支援ツール |
| | 趣味娯楽 | | ○ | | | | ⑦ 販売からデータ提供による支援 |
| 帰宅・迎え(散歩) | ○ | (○) | ○ | ○ | ○ | (○) | ①AI 又はお手伝いロボットの導入 |
| 夕食 | | | ○ | | | | ⑤AI、IOT による遠隔支援環境 |
| 就寝 | | | ○ | | | | ④AI または VR の導入 |
| 休日 | | | ○ | | | | ⑧ AI・AR の導入、データ提供による支援 |
| 災害時 | | | ○ | | | | ⑨ICTや衛星通信による被災地支援 |

◆未来家族の一日



◆各場面のイメージ例

【対話・会議等】

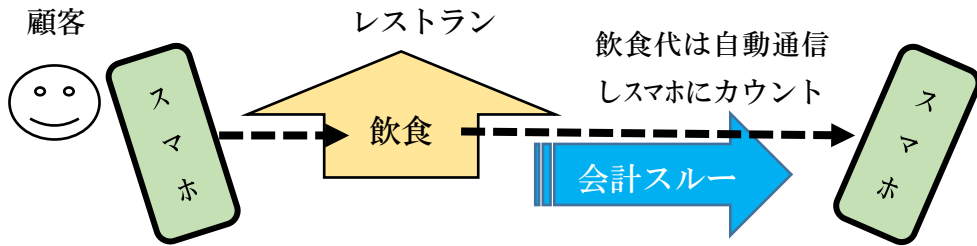


どこにいても
スイッチ切替で
複数の会議に

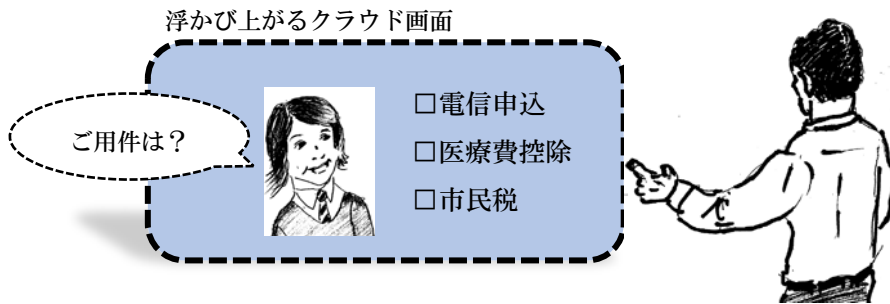
《効果》

- ・場所を選ばず複数業務を
バーチャルに
- ・どんな言語会話にも適用でき、
多様な機会の創出に貢献
- ・フレキシブルな時間管理が可能、システム提供で働きやすさを実現でき、移住受け入れ条件にも
フィット。

【立寄り】……《効果》密接の回避と手軽さとともに他の用途に利活用の域が広がる

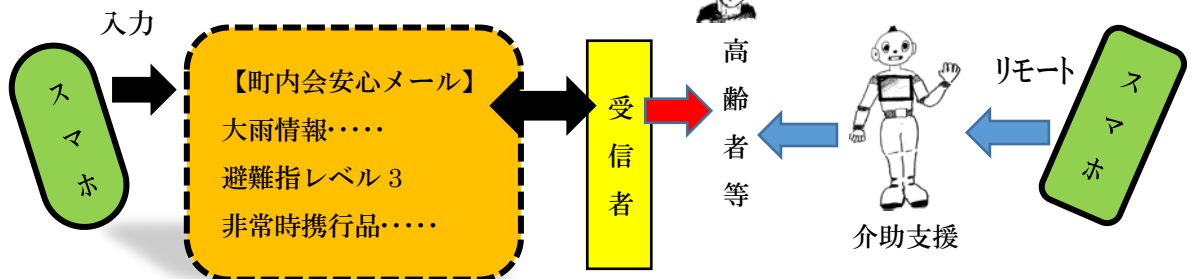


【役所等手続き】……《効果》密接の回避と場所を選ばない手軽さがいい

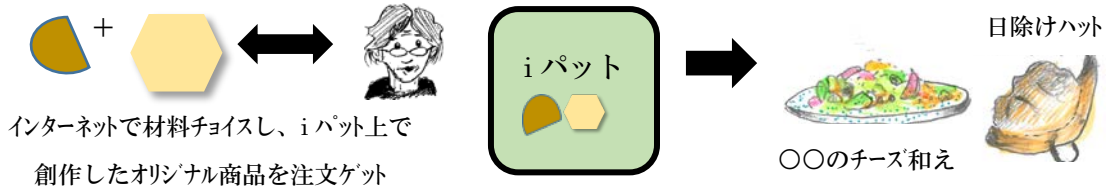


どこにいても AI による
相互通信と画面タッチ
で、ガイド対応で手続き
可能！

【地域活動】……《効果》共助の意識が ICT により充実

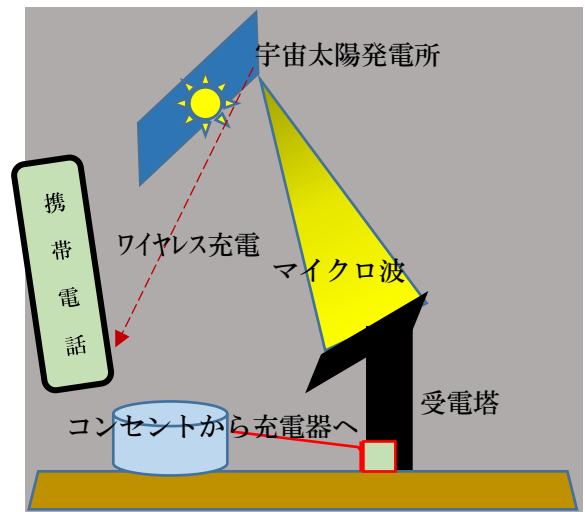
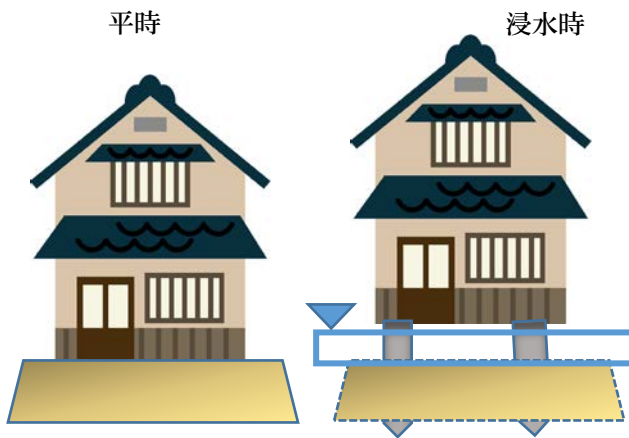


【趣味・娯楽】……《効果》在宅でのオリジナルな創作活動が生きがいを生む



【災害時】……《効果》ICT技術により生命・財産を守る災害に強い街づくりが実現できる

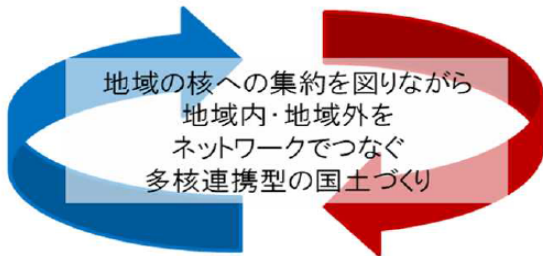
- ▶ 生活の基盤である住居の基礎をジャッキアップ仕様に構築し、浸水前にリモート操作で予測水位以上に家屋ごと上昇させて、水のリスクから逃れる（左図）。
- ▶ 衛星通信から太陽光電力の供給を受ける照明灯などに設けられたコンセントから途絶えない通信・電力環境が期待できる（右図）。



「真の豊かさ」を実感できる国土形成

- ・ Society5.0の実現
(スマートシティ、自動運転、遠隔医療等)
- ・ テレワークや兼業・副業等の働き方
- ・ 二地域居住や関係人口の拡大
- ・ 多様な人が活躍・交流できる社会
(バリアフリーの推進等)

等



我が国が直面する
リスク・課題に対応し国土形成

- ・ 防災・減災の主流化
- ・ 感染症リスクへの対応
- ・ 過度な東京一極集中の是正

等

【参考】

これからの国土のカタチを国交省では、左図のような枠組みで捉えている。この枠組みは、“未来家族の夢物語”の集約として捉えてもいいかと考える。提案では感染症リスクへの対応ばかりではなく、ライフスタイルの変化が、今後どう国のカタチに影響するかを追求した。その点では以下の項目で相通じるものがある。

- (1) テレワークを超えた働き方
- (2) Society5.0による地方で享受できる仕組みが人口構造の変化をもたらす
- (3) リスク社会での住まいと地域での支え合い構造